

令和2年度

学校関係者評価 報告書

学校法人 青池学園

富山リハビリテーション医療福祉大学校

富山リハビリテーション医療福祉大学校

学校関係者評価報告

学校法人青池学園 富山リハビリテーション医療福祉大学校は、教育理念、教育目的等をはじめとする学校教育及び学校運営について自己点検・自己評価を実施し、「令和2年度 学校自己点検・自己評価報告書」を取りまとめ、当校のホームページに公表いたしました。

また、学校関係者評価委員会におきまして、当校に関連する企業・業界の方々や教育関係者の皆様より当校の学校教育及び学校運営に対し、幅広くかつ的確なご意見、ご指導を賜りました。頂戴いたしましたご意見等につきましては「令和2年度 学校関係者評価報告書」としてご報告させていただきます。

今後は、委員の皆様から頂戴いたしました貴重なご意見やご指摘を真摯に受け止め、大いなる気づきとし、社会のニーズに応えられる学生指導と教育の質の保証及び向上を目指し、教職員一同邁進して参る所存でございます。

関係者の皆様には、今後とも尚一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年6月17日

学校法人 青池学園
富山リハビリテーション医療福祉大学校
校長 松田 通彦

令和2年度 学校関係者評価委員会 開催概要

1. 学校関係者評価委員会開催日時

令和3年6月10日（木）15時00分～16時30分

2. 場 所

本校会議室

3. 出 席 者

	学校評価委員	所 属	役 職 名
1	西能 淳	特定医療法人財団 五省会	理事長
2	荒井 公浩	学校法人 荒井学園	理事長
3	川島 一郎	株式会社 斉藤経営	所長代理
4	青池 浩生	学校法人 青池学園	理事長
5	松田 通彦	富山リハビリテーション医療福祉大学校	校 長
6	秋元 俊子	富山リハビリテーション医療福祉大学校	教務課長
7	中川 等史	富山リハビリテーション医療福祉大学校	教務課長
8	惣元 博和	富山リハビリテーション医療福祉大学校	事務局長

4. 学校関係者評価委員会次第

- ① 開会
- ② 理事長挨拶
- ③ 学校関係者評価委員紹介
- ④ 本校教職員紹介
- ⑤ 委員長選任
- ⑥ 自己点検・評価結果についての説明
- ⑦ 意見交換
- ⑧ 閉会

5. 富山リハビリテーション医療福祉大学校「令和2年度自己点検・自己評価報告書」に関する審議・評価

〈自己点検・自己評価について〉

評価項目	評価・意見
基準1 教育理念・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・今春、初の卒業生を出された。入学者数と卒業生数のギャップが懸念される。入学する学生の全てが明確に医療職を志望してくるかは不明なのではないか。経営的には入学率を上げることも必要だが、現実と夢のギャップを埋める指導も必要。時には進路変更を促す必要もあると思われる。医療資格で生涯キャリアを積んでいく職種であることをきちんと説明していくことが肝要である。 ・実習先との情報交換や連携を深めることで、学生を支援していくことができるかもしれない。使命感とやりがいをどのように見せていけるかが大切である。 ・学校で学ぶことは、社会に続く道筋であることを、学生募集段階から丁寧に発信して欲しい。そのうえで職業観の醸成を担う立場であってほしい。
基準2 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学内情報システム（S-WING）を活用し成績管理や徴収金管理等の業務の効率化を図っているとのことだが、これから先もICT化による業務効率改善を進められたい。また、グループウェア等も活用し教員・学生間の情報共有化を進めることも必要である。授業資料のペーパーレス化にも繋がることとなる。 ・意思決定をトップダウン型からボトムアップ型に変えるための企画運営委員会の設置等の取り組みをさらに進め、今後とも円滑な学校運営のため工夫を重ねてほしい。
基準3 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学生、教員間の授業評価の体制については、学生面談や互見授業や学生アンケート実施等工夫し教員の能力開発を行ない、PDCAサイクルで廻していくことにより評価・改善していく。また、そのための教職員研修の充実に努められたい。 ・現在派遣を受けている医療法人の理学療法士によるアドバイスや助言は、医療現場と教育機関のギャップを埋めるために有効であり、さらに教員間でも研究し活用を進めてほしい。そして組織的・恒常的に教員の質を高める努力を期待したい。 ・昨年から続くコロナ禍で、分散登校やオンライン授業の実施等平時と異なる状態にありご苦労されていると思うが、学生のモチベーションを維持し教育の質を落とさないための研究も併せて進めてほしい。 ・教員に与えられた「研修日」の活用により、授業研究や自己研修を進め教員の質の向上に努めている制度は、それぞれの教員がより強い目的意識を持って行うことで効果が期待できる。 ・リハビリ専門職は、ともしればこれからのビジョンが薄いので、個人で開業しているようなセラピストを授業に招聘しキャリアデザインなども学ばせることも必要ではないか。
基準4 教育成果	<ul style="list-style-type: none"> ・今春卒業した第1期生の就職率及び国家試験合格率が、各科ともそれぞれ100%であったことは評価に値する。 ・経済的な理由による退学はあるのか？支援制度や奨学金の紹介等をさらに充実して

	<p>学生生活の継続をフォローされたい。親にとっては、子供を大学や専門学校に行かせることは「投資」になるので、大学よりも本校専門学校に行かせることが就職やその他「良い投資」になるというモデルになってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退学率の低減を目指すために、入学後の授業や学校生活はもちろんのこと。広報、募集活動の時点から、本校の情報をより詳細に理解させる必要があると考える。 ・同窓会の組織を通して、学校の教職員が卒業生の悩み事を聞いたり、話せるような場を作っていくことでインターンシップ先や実習の場の情報交換ができるようになる。ブランド力が上がるような同窓生の組織づくりを期待したい。
<p>基準5 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金制度を利用している学生が多い。経済的な支援を必要としている学生も少なからずいるようなので、学園全体として授業料の徴収猶予や分納等を活用し、学生が安心して学校生活を送れるよう工夫されたい。 ・少人数であるという本校の特徴を活かし、保護者との綿密な連携を行い家族間で不安の解消を進めていることは良い。 ・コロナ禍で地域や関連施設でのボランティア活動は、制限せざるを得ない状況にあるが、学校・学生のイメージアップに寄与するとともに、学生のインターンシップにもつながる。機会を捉えて積極的に参加されるとよい。 ・学校が安心できる場所になることが大事であると考えている。学生の確保は大切であるが、高校の教員は大学に入学させることに重きを置いている。高校はキャリア教育が苦手であると思っており、キャリア教育の実践を生徒に伝えているのかと日々疑問に思っている。
<p>基準6 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災訓練を年2回実施しているとのことだが、防災などの危機管理や有事における対応は、繰り返し身につけることが大事である。 ・防災士（救急の時にどのような対応を取るのか指示する資格）の取得に向けた検討もされてはいかかが。認定資格で比較的簡単に取得でき、学生の防災意識の向上にも寄与すると思う。 ・本校の施設・設備は最新のものが整備されている。この環境を高校生・保護者や高校関係者に広くPRする機会を増やせば、入学者の増加にも繋がると思う。工夫されたい。
<p>基準7 学生の受入れ募集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が計画的に学生募集にあたることを意識して取り組むことが大切である。 ・新しい学校をアピールするために魅力ある学校づくりに教職員が協力・努力していくことが必要。目標値としての入学者を設定し、努力していくことが必要である。 ・今年3月に初の卒業生が出た。就職状況や国家試験等資格取得状況等各種データを積極的に公開していけば、志願者へのよいPRとなる。 ・オープンキャンパスや体験入学に学生スタッフが協力しているとのことだが、同世代の先輩から、学校生活や授業について伝えることは良い取り組みだと思う。
<p>基準8 財務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者確保が財務基盤の安定化につながることを教職員も意識し、学生募集にあたるのが大事である。また、目標値として入学者を設定し努力していく必要がある。教職員も予算を意識した学校運営の視点が必要である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・財務基盤は安定している。富山校の貢献が大きいので、これからも学生数の確保を継続してほしい。流動資産（現金・預金）も多い。 ・学校経営の観点から、教務事務システム（S-WING）を活用した業務の効率化をきっかけとして、業務改善、I C T化等により学園全体のネットワークを構築することにより人的資源の有効活用や経費の節減にもつなげていくことができる。
基準9 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の保護については、十分に対応されているようであるが、さらに細心の注意をはらって継続されたい。これが信頼度の向上にもつながる。
基準10 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で地域社会との連携する機会は制限せざるを得ない状況ではあるが、実施可能範囲での取り組みは、さらに充実させていただきたい。 ・学校全体で学生のボランティアを支援する取り組みは、長く続けてほしい。

6. 今後の取組み

各委員からの貴重なご意見、ご要望を真摯に受けとめるとともに、当面する課題を検討・改善し今後の教育活動に生かして参りたいと思います。特に専門職を目指すためのより実践的なカリキュラムの充実、本学園の教育方針である「人間力」、「実践力」、「社会力」の3つの力の育成に向け指導を徹底することなど、令和3年度中にさらに体制を強化し、学校運営に活用して、より良い教育の実践を通して学生の育成に努めます。

以上